

大学構内の木質バイオマスを活用した環境教育 - 宮城教育大学での炭焼きの取り組み -
Environmental education program of producing charcoal from recycled waste wood in the campus of Miyagi University of Edu

西城 潔^{1*}
KIYOSHI SAIJO^{1*}

¹ 宮城教育大学
¹ Miyagi University of Education

かつて日本では、生活・産業・文化を支える燃料として炭が重要な位置を占め、農村集落に隣接する里山（雑木林）では炭焼きが広く行われていた。しかし1950年代後半の燃料革命による化石燃料の普及に伴い、炭の生産は急速に衰退した。つまりわが国では、炭焼きが行われなくなって半世紀以上の時間が経過しており、現在では炭焼きに関わる知識・技術を持った人はごくわずかしか残っていないと考えられる。将来的な自然資源の利用と管理のあり方を考えていくために、こうした技能を何らかの形で後世に継承していくことは、重要な社会的課題といえる。本発表では、環境教育の面からのこうした課題に対するアプローチ事例として、大学構内の木質バイオマスを活用した炭焼きの取り組みについて紹介する。

キーワード: 炭焼き, 木質バイオマス, 環境教育
Keywords: Charcoal production, Woody biomass, Environmental education